

## 要約 京都の経営経済動向調査結果 (2017. 6. 20)

－2017年4～6月期実績と2017年7～9月期及び2017年10～12月期予想－

京都商工会議所  
担当：中小企業経営支援センター  
電話 (075) 212-6467

国内景気は回復し、先行きに期待感  
～自社業況は低迷するも、今後、緩やかに回復～

### 概要

今期の国内景気BSI値は5.7（前期実績▲4.7）と上昇し、前回予想値（1.8）よりも、プラス幅が拡大する結果となった。今後の7～9月期は3.3、続く10～12月期は7.3と上昇を見込んでおり、国内景気の先行きに対する期待感がうかがえる。

自社業況は、春の需要期にあたる旅館・ホテル、運輸・倉庫業、料理・飲食等の観光関連産業が上昇に転じたものの、製造業の一部や建設業等が下降したため、全体として力強さが感じられず、BSI値▲0.1（前期実績▲8.1）とほぼ横ばいとなった。続く7～9月期は、幅広い業種で下降が見られ、BSI値▲1.0とマイナスでの推移を予想しているが、秋の需要期となる10～12月期は、BSI値9.5とほぼ全ての業種で上昇を予想しており、全体としては緩やかな回復基調に転じている。

（注）4月の下旬から5月の中旬にかけて同調査を実施し、574社中436社から回答を得た（対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業）。また4～6月期のBSI値は、2017年1～3月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス（▲）」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

### I 国内景気動向

2017年4～6月期は、「上昇」とした企業19.7%（前期実績12.1%）、「下降」とした企業8.4%（前期実績21.5%）、BSI値は前回予想値1.8を上回り、5.7（前期実績▲4.7）と上昇に転じた。今後の7～9月期は3.3、続く10～12月期も7.3と上昇が続く見込みとなっている。

### II 企業経営動向

**自社業況（総合判断）** 2017年4～6月期は、「上昇」とした企業24.7%（前期実績19.8%）、「下降」とした企業24.9%（前期実績36.0%）、BSI値▲0.1（前期実績▲8.1）とほぼ横ばいとなった。今後の7～9月期のBSI値は▲1.0と下降に転じ、続く10～12月期は9.5と大幅に回復する見通しとなっている。

**1. 生産・売上高、工事施工高** 2017年4～6月期は、「増加」26.7%（前期実績21.5%）、「減少」25.8%（前期実績38.7%）、BSI値0.4（前期実績▲8.6）とほぼ横ばいとなった。今後の7～9月期のBSI値は▲1.2と減少するものの、続く10～12月期は10.6と大きくプラスに転じる見込みとなっている。

**2. 製・商品・サービス・請負価格** 2017年4～6月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」9.2%（前期実績6.0%）、「下降」5.9%（前期実績10.3%）、BSI値1.7（前期実績▲2.2）と上昇した。今後の7～9月期のBSI値は1.1、続く10～12月期も2.6と上昇基調で推移する見通しとなっている。

3. 経常利益 2017年4～6月期は、「増加」20.6%（前期実績20.4%）、「減少」31.1%（前期実績38.9%）、BSI値▲5.3（前期実績▲9.3）と減少した。今後の7～9月期のBSI値は▲4.2と引き続き減少で推移し、続く10～12月期は5.6と上昇に転じると予想している。

4. 所定外労働時間 2017年4～6月期は、「増加」19.1%（前期実績18.2%）、「減少」19.3%（前期実績22.6%）、BSI値▲0.1（前期実績▲2.2）とほぼ横ばいとなった。今後の7～9月期のBSI値は▲2.2と減少するが、続く10～12月期は8.4と増加に転じる見通しとなっている。

5. 製・商品在庫 2017年4～6月期は、「適正」とする企業が78.0%（前期実績79.1%）、「過剰」とする企業が15.5%（前期実績15.2%）、「不足」とする企業が6.4%（前期実績5.7%）、BSI値4.6（前期実績4.8）と概ね適正水準で推移したが、引き続き一部に過剰感が見られている。今後の7～9月期は「適正」が85.5%、続く10～12月期は87.8%と、徐々に改善する見込みとなっている。

6. 資金繰り 2017年4～6月期は、「改善」とする企業12.0%（前期実績7.6%）、「悪化」とする企業が8.1%（前期実績12.3%）、BSI値2.0（前期実績▲2.4）と改善した。今後の7～9月期のBSI値は▲3.0と悪化し、続く10～12月期は0.6とほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

### Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は、「受注・売上不振」（37.4%）、第2位は「求人難」（34.2%）、第3位は「過当競争」（22.2%）、第4位は「人件費負担増大」（21.8%）、第5位は「技能労働者不足」（19.0%）といずれも前回調査と同順位であり、第6位は、前回第7位の「原材（燃）料高」（17.9%）が入る結果となった。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2017年1～3月期	2017年4～6月期	2017年7～9月期	2017年10～12月期
国	内 景 気 動 向	▲ 4.7	5.7	3.3	7.3
京 都 企 業 の 経 営 動 向	自 社 業 況 ( 総 合 判 断 )	▲ 8.1	▲ 0.1	▲ 1.0	9.5
	1. 生産・売上高、工事施工高	▲ 8.6	0.4	▲ 1.2	10.6
	2. 製・商品・サービス・請負価格	▲ 2.2	1.7	1.1	2.6
	3. 経 常 利 益	▲ 9.3	▲ 5.3	▲ 4.2	5.6
	4. 所 定 外 労 働 時 間	▲ 2.2	▲ 0.1	▲ 2.2	8.4
	5. 製 ・ 商 品 在 庫	4.8	4.6	4.3	2.7
	6. 資 金 繰 り	▲ 2.4	2.0	▲ 3.0	0.6

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) ×  $\frac{1}{2}$